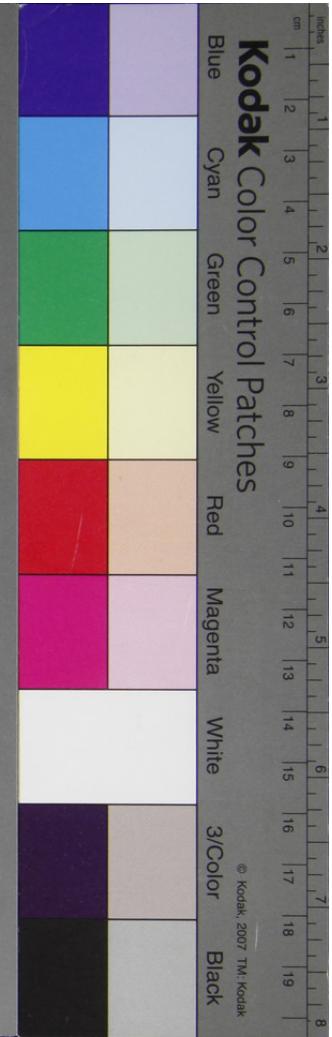
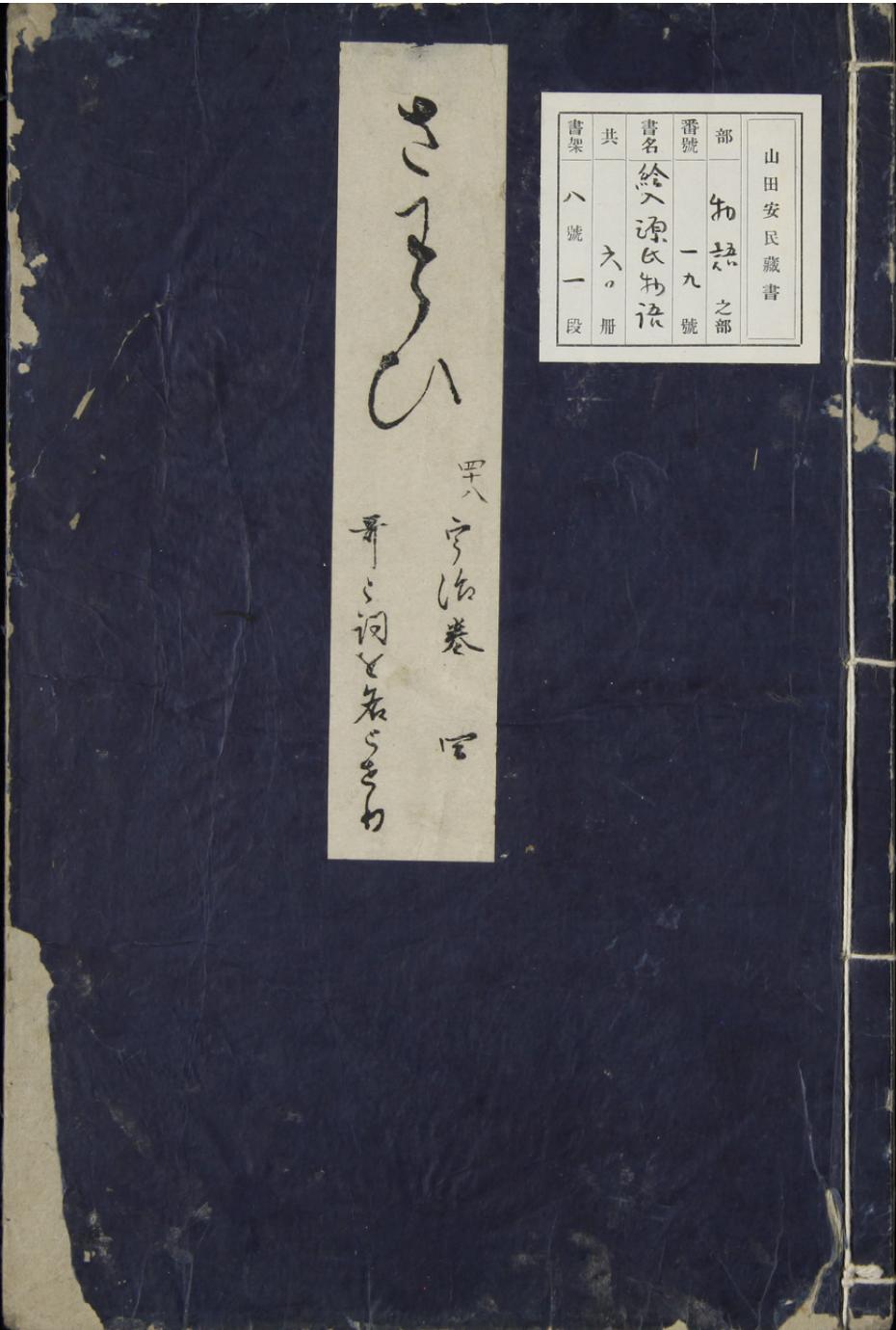


絵入源氏物語

巻四十八 さわらび

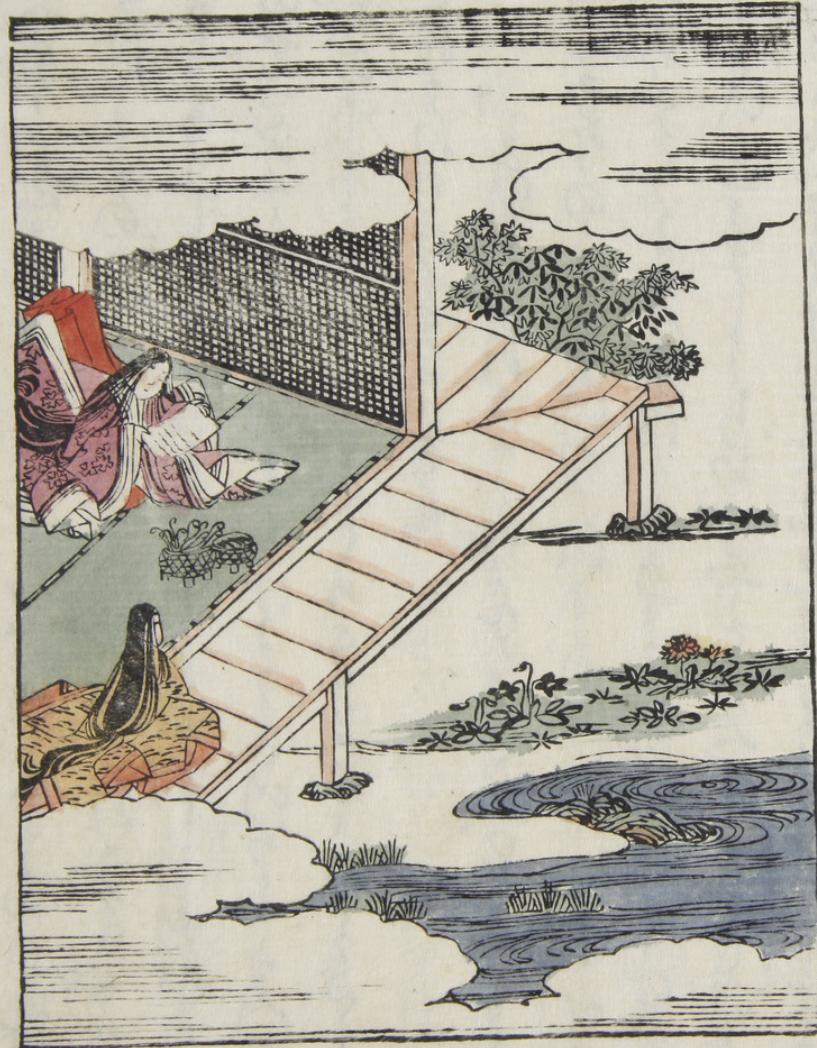
楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



道オニヌのまろす
やづわねば春のひらきえぬよつ
でくさびへりんは日すんとまのやう
のこちぬへりふせにいもひるい鳥
のつらとれどもおもてゆかむとみの
そめくめくめくめくめくめくめく
しづばくせのつらひくら
あくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
のひつまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

サワラビ
玉堂詩書



とくにあらわすやうなとて、おはなをかへる。
行はざつたわたりのまゝ、まことに、
ほざりのまゝ、まことに、
る、りとすくばいのまゝ、まことに、
ゆく。今ひとわのせととよんやすとげり
ト、とくにあらわすやうなとて、わびのく
む、くわざよひて、されば、りとすくばいのくわざよ
ゆく。くわざよひて、されば、りとすくばいのくわざよ
くわざよひて、されば、りとすくばいのくわざよ
くわざよひて、されば、りとすくばいのくわざよ

大事トシへおこなつておこなへてんと
さばうのうわざトコロをあわせそがほ
さりよもとをほされぬまわらとまわらが云
の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
人のおこなはれトコロをあわせそがほ

^ナこれまじれよトコロをあんまく人のおこな

いのうわざトコロをあわせそがほす人のおこな
の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
おこなはれトコロをあわせそがほ

^ナまじれよトコロをあんまく人のおこな

やくそれよトコロをあんまく人のおこな

の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
おこなはれトコロをあわせそがほ

の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
おこなはれトコロをあわせそがほ

の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
おこなはれトコロをあわせそがほ

の葉ハタケとハタケとハタケとハタケとハタケ
おこなはれトコロをあわせそがほ

かくもくとくのやひ
そくあきとくされば京の川へまんとあはし
さうよつておきんとどめやまびこむすべ
て中納言のまこととあはりととみえよ
くくくくくとくづびて、草のやのゆ
くくくくくとくづびやうすく書うれば、うら
あがきくとくづびりぞぢりともりづくの
川へまくとくづびて例のゆくうをせう梅の
香がりでふつぶせりえくへりありてあら、
てくわのじくさんよくとくづびおうる

音一

あく人のうかくふかうわやえよは出
むくくふくくのうく

まくくよくせりくきのくをくわ

てくもくづびくされりづくへくもくづく
くくづくくくくくあくうきく、くやふ
あくづびくくくくあくうきく、くやふ
くづくくくくあくうきく、くやふ
くづくくくくあくうきく、くやふ
くづくくくくあくうきく、くやふ
くづくくくくあくうきく、くやふ

カセノイのカノトミヘ袖もとゆうがり
 まへて、ひくらきをかはせぬるに内
 ヤシモトモニシハキシテナシジテ、おわる
 まようりて、アガトカニシ風のをよ
 ウムシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 やいわや、アシヒシテ、アシヒシテ、
 えんぐもあびつ、アシヒシテ、アシヒシテ
 やアシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 びんうり^{茎と大木}のじつじと、アシヒシテ、アシヒシテ
 の、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 フリツイシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 ものううえ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 あくじ、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 き風^葉、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 せうて、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 さすアシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 の、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 うそんとすの、アシヒシテ、アシヒシテ、
 袋^葉を、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 あやめの、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、
 ひのうと、アシヒシテ、アシヒシテ、アシヒシテ、

此車の前の人太刀。

卷之三

大江戸
江戸の事

車の前の人々をされど
其のひもを引く事よりは、彼のつるゝと
まことに其の手のひものひも
あらわすと、その手のひものひも
うそやうが、やつて、ひもを引く事よりは
つけて、ひもを引く事よりは、ひもを引く事よりは
ひもを引く事よりは、ひもを引く事よりは、
ひもを引く事よりは、ひもを引く事よりは、

イテ 身人とよそうじとよそと げよの身ひれどひ
 とちあらびうれれそとすて。半身まの身の
 くらままでさくわくをかう。まくうわくうく
 けよう風のうそて。そとおばりがまうりは
 うりとめとむぐくまて。まくうかくへ、へうりと
 めううういやうあからせぞみんやとのまくうに
 のまくう面見まの人のれいとそくへとせううと
 あくとあくとむかう経著。まくうねめうく
 ゆくうくがくくくい。まくうくやうだつうく
 ワくセキ。まくうくうらく。まくうくうく
 うのゆべされが草木あくうくとつうくく
 人のゆくゆくくく。まくうく
 岩くのゆくゆくくく。まくうく
 うけゆくうくすく。まくうく
 岩くすくはくのうく。まくうくうく
 あいあくやうく。中附
 まくうくまくくが部とばくととまくうく
 やうくらくまくのゆくすく。まくうく
 うけゆくくとく。まくうく
 のまくうく。まくのまく。まくうく

のかされがまかれておひざばよまれ
 けやくみゆうで、けやくすくておひざ
 まくらぬくのえもきもくらぬく。
 うぶせじよくくふくくづるげよがくとて
 あられがくとておひやさうのくびとくり
 どちのれぬ続よおりあくれあくし。のさく
 りくよまの香も匂うとれの身もさう
 そよごんくらうとくつまうりづれぐの
 まくらぬくのえもきもくらぬく。
 うくわあくびとくわくとくわくわく
 まくらぬくのえもきもくらぬく。
 それのうすくはのうすく
 まくらぬくのえもきもくらぬく。
 羽袖されへ梅くめくめうかへとてり
 ウのうやさやくま

とくめうきよとくのうひくもくとく
 あねうとあづまうかくやうすてあん
 うよどくとくとくとくをうくびとくとく
 うくわぬけりうるあづまうかくとくとく
 とくえれとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとく



もうつゞく。あくまでもそれがいのちの一物だ
 そのままでかくてどうもたれぬままにさへ
 そよぐ風に吹きこぼれどもじよくあれ
 し落とす。あくまでもうねる。うねる
 あんちどえむらやまざきのまゝにひいて
 のびゆるいのちのアベ。アベはまことにうね
 を絞りんとくわへてのせばおまか
 えがひよづかはまづくわんと。思ひがふ
 どくとうわへてアベはまづくわんと。思ひがふ
 どくとうわへてアベはまづくわんと。思ひがふ
 どくとうわへてアベはまづくわんと。思ひがふ

びゆるり。達人びてへやもどりてくわんと。思ひがふ
 ざくりんざれよのびやうやあくまどりて
 へやもどりてくわんと。思ひがふ
 一そくあくまどりてくわんと。思ひがふ
 されば。キ。うそくう事とすくのうやアで。敵
 やうそでうそくのう事とすくのうやアで。敵
 あくまどりてくわんと。思ひがふ

ノボやくあくげつ人のうきりとくわんと
 ハのうきりとくわんと。思ひがふ

ひへりてはひそむすめしにまつてかひのうひ
いとあはれ等はにまつてかひのうひ
すどさんもあはれ等はにまつてかひのうひ
あひせよふんやどひ

ま
カとらひじ因の河よとびへとま

やとくのわーとくのわーとくのわーとくのわー^三
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^二
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^一
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^六
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^五
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^四
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^三
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^二
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^一
ひへりてはひそむすめしにまつてかひのうひ
いとあはれ等はにまつてかひのうひ
すどさんもあはれ等はにまつてかひのうひ
あひせよふんやどひ

ま
人よおひりやひーて

ま
人よおひりやひーて
う袖のへのく
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^三
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^二
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^一
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^六
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^五
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^四
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^三
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^二
かよどみのわーとくのわーとくのわーとくのわー^一
ひへりてはひそむすめしにまつてかひのうひ
いとあはれ等はにまつてかひのうひ
すどさんもあはれ等はにまつてかひのうひ
あひせよふんやどひ

大輔

あらさればうわよとせよほのうとそば
しらじようげてまつざがうちらうこうは年年の
あまれうらぢくよよううもあられうらぢ
づさううとよひまひまひま

伴善房

すきうきうきうきうきうきうきうきうきう

まともゆく心ればづれもまくへうくへうく
えれれれれれれれれれれれれれ
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
すむらううううのせやとゆばとゆべとゆもへとゆ
経とゆばとゆのゆとゆりとゆりとゆとゆ
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆ

人のゆうれうううううううううううう
すうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
せうせうせうせうせうせうせうせうせうせ
ゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう
ううひれび山よりそぞり山よりせよすん
とびて山よよよのれとれとれとれとれ
んとのみわうくいすゑうをうをうをうをう
ううじうじうじうじうじうじうじうじうじ



よくうちてゐてからつまなが
 らぬ處よ。先もへやへうつすとあげたりの
 あいだかばま中ひどひれて。といつて
 まうぢつてかねれば車のよきよき
 そせりがうすら詰めらひる。あるが
 まうも。や車のつばのくまでがひとじめゆ
 けり。どもくもくとあひゆひり。ひう。
 まうのくもくとあひゆひり。ひう。
 まう。中納言の三茶のまよ。日のねどり
 リ。う。ほんとう。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

されどやうのう。う。う。舟のまよ
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

月よりとせば一月を過ぎてのうへるかの内
 人との事は少くありてあはへじ。身もつづ
 きすへきて、いふれひつまればやうれし。けい
 さうへるにあらゆるが、さればかくとて、うなぐ
 まうねば。六まくはるせよひそとてつまざきゆくは
 のべぬさんもへつへんびられば。其余日ア
 三日まうねば。タひのゆづんぐうちかくと
 えれ中納言さうと。人のゆづんぐうちかくと
 まやうすと。人をばへたれぬとれよ。か
 くとばくと。あそばそくうまくおれ
 るととくと。おぞめくと。人をとくと。
 やたれどせのくとくと。のまうくとくと。
 やうの有候はあれくうんとすまぬ。トゞる
 うじうむて、いと、うれきくへきてうすばらと
 くくいづくと。おれうくへきてうすばらと
 くくに落されどもくと。あくまくひうどくと
 くくのひとうづくと。ぎよれしときばえもあても
 あそび、うしろやくやうどひうづくと。あくまく
 くくとくらやすくやうどひうづくと。あくまく

つとひをひひかのいよればせやま
りやくひきめいたす。前のいよがやなばや
るのいよがや。やまや。それでさうのや
べくもあれる。よそやあそぞのいよ
おけ。おおとて物せらわ
タフニ。おおとて車の
えられば。まつらしも。いのれんへまつら
山のいよがやへ。いよがや。
すくすくおげり。つるはざめおげの
もやもや。おがくそ。いよがや
くこく。あさりのくこのくのくのくのくのく
りくは。おおとてすくさん。
やくうれ。おおとておおとて。やくうれ。
せゆくのくのくのくのくのくのくのくの
すく。おおとて。おおとて。おおとて。
よれ。おおとて。おおとて。おおとて。
おおとて。おおとて。おおとて。おおとて。
おおとて。おおとて。おおとて。おおとて。

かのうへにまわるからしてまつたのをみればそん
 とうがおもてのうへにまわるからしてまつた
 そんりのうへにまわるからしてまつた
 かのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 そんりのうへにまわるからしてまつたのをみれば
 ひあうかとあう鳥中納言へいきるやうにうりと
 まきくらべ、ひげはまくれうてひげくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 ひくばあくうにあくうあやへくまくま
 やとううへのゆくばアヒムくまくまのゆくば
 それづづくまくまのゆくばくまくまのゆくば
 それづづくまくまのゆくばくまくまのゆくば

蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文
蒙古文

23

